

新しい出会いの中で

新緑が美しい季節となりました。周り一面桜に囲われた環境の中で出会った子どもたちと大人たち。慣らし保育も終わり、つくし、たんぽぽさんやすみれさんからも元気な泣き声が響いていましたが、最近はその子ども、保育者に慣れ、自分の居場所をみつけ笑顔で活動しています。その子どもたちも、新しい担任や友だちとの出会いの中で友だちとの関わりを楽しんでいます。

よく眠りよく食べよくあそぶ生活の中で、心と体の発達と成長を確かなものにしていきましょう。ののかぜ保育園での、あそび・暮らし・文化を共有しあい、楽しい充実した一年をすごしましょう。父母の皆さんも子どもたちと一緒に保育園生活を楽しみ、子育て仲間をつくっていきましょう。



園庭に新たに遊具出来上がりました

園庭には、開園前に乳児棟側の桜の木の下に「ちいさなお家」を設置しました。ここでは、子どもたちが中と外でお店屋さんごっこみたいにやり取りができるようにと、カウンターを設置したり、中にベンチをつけてまごごが出来るとなるような空間も作りました。園庭にでると、さっそくここで「お店屋さん」になって「いらっしゃいませー」「ケーキ屋さんで～す！」「〇〇円です」etc. と遊んでいる子どもたちです。

このお家は、木の遊具を作っている「福祉工房りょうざん」と相談をしながら図面を引いてもらって作っています。そしてもう一つ、子どもたちが夢中になって遊べるようにと、昨年相談してきた滑り台も4月中旬に設置できました。この遊具を作っている最中、子どもたちは「早く滑り台やりた～い！」「ワクワクする」と言いながら憧れのまなざしで眺めていました。完成するとさっそくこれで遊びだす子どもたち。特に人気なのがちょっとしたボルダリングの部分。忍者のつもりになって登っています。この姿を見てすみれ組さんたちもチャレンジしています。



学習の土台をつくる 脳育て

人間の脳は「古い脳」と「新しい脳」の2つに大きく分けられます。「古い脳」は生きていくために最低限必要な機能があり、すべての動物がもっています。「新しい脳」は、進化した動物だけがもち、記憶や思考、言語などの機能をつかさどっています。「新しい脳」の働きばかり訓練しても、土台になる古い脳がしっかり育っていなければ才能は伸びません。脳は2階建ての家のようなものです。体のあらゆる部分の働きをコントロールしているのが脳です。スポーツも勉強も心も、すべて脳の働きによるもの。だからこそ「すべての基礎となる脳」を育てることが肝心です。（小児科医・発達脳科学研究者：成田奈緒子氏）

ののかぜ保育園では「よく眠り、よく食べ、よくあそぶ」生活を大切にしていきます。これは、乳幼児期の子どもの育ちには欠かせません。早寝早起きの生活で、体内時計がしっかりつくられます。朝ご飯をしっかり食べ、一日の始まりには朝日を浴びて、昼間は五感を働かせ（視覚、聴覚、味覚、嗅覚、触覚）、夜は電気を暗くして十分な睡眠をとることが大切です。運動と脳は密接に関係しています。ののかぜ保育園では、戸外あそび、リズム運動、手仕事（ポットン落としや紐通しに始まり、描画・造形につながっていきます）を日常に取り入れ、手や体を使ってあそびます。手や足は突き出た大脳と言われている、裸足は、足の裏から刺激をしっかりと脳に伝え脳神経を刺激します。（靴下は防寒時のみ使用）

早期教育を頑張るのではなく、テレビやゲームをできるだけ遠ざけ、絵本の読み聞かせや、親子の会話を楽しむことが大切です。